

胎教読本

はらだそがく
原田祖岳著

目次

第一部 胎教のすすめ

- 一、胎教で良い子ができる
- 二、妊婦は安産、こどもは優秀
- 三、胎教提唱のはじまり
- 四、胎教の方法
- 五、拜むのは旭日昇天と仏菩薩

第二部 胎教読本

- 一、消極的心得
- 二、積極的心得
- 三、胎教の静坐の仕方
- 四、胎教と読書の心得
- 五、胎教と情操（心がまえ）
- 六、誕生後五〜六年間の注意
- 七、光輝ある予言

第一部

胎教のすすめ

これは昭和三十六年、老師ろうしご遷化せんげの年の六月号『大法輪だいはうりん』に「胎教たいきょうで良い子がで
きるか」のテーマで寄稿きこうを依頼いひいされたのに答えられたものです。

一、胎教たいきょうで良い子ができる

わたしが日ごろ提唱ていしょうしている胎教たいきょうの仕方たいきょうを実行した人々は、例外な
く身心ともに優秀あいじなる愛児あいじを安産して喜んでいます。その実行の度合どあい、
すなわちわたしの教えた通りに真面目まじめに実行したか否いなかまた熱心にした
か、中ぐらいか、少しばかり行ったかななどによって、その効果にはおの
ずから開きが現れてきますが、実行しただけの結果を必ず得ていること
は、仏教の教える因果必然いんがひつぜんの法則通りであります。それらの実行者たち
が、自慢話じまんばなしになるために、内輪うちわだけにしてその効果を発表はつぱつされないのは
残念ですが、最近も藤沢市（神奈川県）にお住いのある裁判官の夫人か
ら「長男が今春東大を優秀な成績で卒業して一流の大銀行に就職した。
この子は身心ともにすぐれていて、高校時代から先生におほめいただき
ていた。これも老師ろうしのお導きによって、胎教たいきょうを実行したおかげと感謝し
ている」旨むねのお便りをいただき、わたしも喜んでいるところで、こうい
う例は枚挙まいきよにいとまがないのであります。

二、妊婦にんぶは安産、こどもは優秀

まず共通している効果を例挙れいきよしますと第一に皆々安産です。そして生まれうぶゆた赤ちゃんは落着いていて、初湯を使わせる時、眼をパツチリと開いて手足をノビノビとのばしています。またやたらに泣かずよく眠ります。

次に大きくなって他の子供と遊ぶようになると、いつも子供仲間から尊敬そんけいを受けて、良い意味の人気者、中心人物となり、学校へ行くようになると組長とか委員長とかに選ばれる子供が多い。もちろん学校の成績もよろしい。また小さい時から聞きわけがよくて親のいうことをよく聞くし、体も丈夫で、すべて一般の子供と比較して、すぐれていて、親の手がかからず育てよたいきょういと、胎教たいきょうを実行した人々は異口同音いくどうおんに申ししております。

ある信者の婦人は最初の子供は胎教たいきょうし、第二番目の子供は全然しなかつたら、その結果のあまりの違いに驚きおそれて、第三番目の子供はまた胎教たいきょうしたところ、良いお子さんのようで、二番目の子供だけは体も気も弱くて泣き虫で、これも親の怠慢たいまんからと思うと、その子に申し訳ないと懺悔ざんげしていました。

三、胎教提唱のはじまりたいきょうていしやう

そもそもわたしが胎教たいきょうを提唱ていしやうし始めたのは大正十三年、今の陛下のご成婚せいこんの時ですが、実は、わたしが胎内教育たいないきょういくということについて関心をもち出したのは、もっと以前の二十歳ぐらいの頃からと思います。当時

国民の各層かくそうに人材がとぼしく偉大いだいな人物が出なければ国家の前途ぜんとは危な
いと、英雄えいゆう、偉人いじんの待望たいぼうが盛さかんに叫ばれている時代でしたから、その影
響もあつて、わたしは偉大いだいなる人物はどうすれば出るかを熱心に考え、
かつ研究しました。そして偉人いじんの伝記でんきを読むと、母親たいないきょういくが胎内教育たいないきょういくをした
ことが（意識的にしなくとも）いたるところに記しるされているのに気づい
たし、わたしの貧しい科学知識に照らしてみても、また仏教いんねんしやうくわの因縁性空
の道理からみても、いささかの悟道ごどうの見地けんちからもさらに、東西古今の
胎教たいきょうの研究の学者の説を読んでも、胎教たいきょうがいかに偉大いだいであるかという
結論に達しました。

そこで、その頃から胎教たいきょうの効果、すなわち胎内教育たいないきょういくの価値たけというこ
とについて注意し研究心を動かしていましたが、注意すればするほど、
研究すればするほど、その効果の顕著けんちやにして偉大いだいであることを、確信かくしんせ
ずにはおられませんでした。

四、胎教たいきょうの方法

さてその方法であります、これについては、実は記しるされた本があま
りないことに驚きました。古今東西、胎教たいきょうの必要を論じた本はかなり出
ておりますが、その実行方法は明示めいじしたものがありません。わずかに元禄時代
に、儒者じゆしやの稻生恒軒先生いのこうけんが『いなご草』という本あらわを著して、妊婦にんぶの心
持ち方や起居動作ききよどうさの注意などを示されているくらいのもので、現代では、
故下田次郎博士こしもだじろうの『胎教たいきょう』などは実に立派な胎教の本ですが、これも

方法に触れていないのは遺憾であります。これではご馳走の香りをかがされて食欲は大いに出たのに、肝心の食べ物が無いというのと同然で、せつかく胎教をしようとしても実際に当たってとまどってしまいうではありませんか。

そこでわたしが考え出したのが、つぎのような因縁性空の理と坐禅を応用した実行方法であります。これについての詳しいことは本書第二部の『胎教読本』をごらんねがうことにして、ここではごく肝心のところだけを紹介しますと、朝から昼までは太陽（旭日昇天）の掛軸の前で姿勢を正しく坐ってまずその太陽をよく見つめること二、三分間する。そして後に眼を閉じて今見た太陽を心にえがくこと二、三分間する。始めのうちは心によくえがけません、慣れると眼を閉じればすぐにはつきり見えるようになります。これを三回くりかえします。そして「さきのぼる朝日の如くにさわやかに持たまほしきは心なりけり」の明治天皇の御製を拝唱すること三辺ないし十辺くらいします。こうして、なお時間があったらのんびり、どっしりした気分をもつて静坐を十分でも三分でもするとよろしいのです。そして、昼から夜にかけては、聖徳太子の掛軸を対象にして太陽の時と同様に、その前に正しく坐って太子像を見つめること二、三分、眼を閉じて心にえがくこと二、三分間これを三回くりかえます。わたしが秘蔵している聖徳太子のお軸には、太子の十

七条憲法第二条の「篤く三宝を敬え云々」を賛に排書しておきました。

敬虔な気持ちで合掌し知っているお経（わたしは延命十句観音経をおすすめしている）を排唱し、心身ともに良い子供が安産できますようにとお祈りして、時間の余裕があつたら朝のように静かに坐ると一層効果的です。このようにして、太陽と聖徳太子の掛軸の前で正坐することを実行した母親の赤ちゃんは、その掛軸の聖徳太子によく似て気品の高い顔をしているので、父母のどちらにも似ないと人にいわれると報告してきた人もあるくらいです。もっともその後そばにいるのは親だから、だんだん親の顔に似てきますけれど……

五、拝むのは旭日昇天と仏菩薩

なお、聖徳太子の代りに観音様などの仏菩薩を対象に用いられるのも結構ですが、この場合には、正面向きのご相貌のよいのを選び、それが大切です。

胎教については、ほかにも心得がいろいろありますが、以上の肝要なことだけでも実行されるならば、必ずすばらしい愛児に恵まれます。母胎内にある間の子供は、その母と一体ですから、母の経験はそっくり胎児の経験となり、旭日昇天と聖徳太子の影響を受けて生れ出る子供がすばらしいのは、あまりにも当然のことです。

身心ともに立派な子供の誕生は、ひとりその子のためのみならず、家のためであり、世界人類のためでもありますから、何をおいても皆さんに実行していただきたい大事業であります。今まで、この方法によって

どのくらいの効果があがっているか、一々調査して統計にでもまとめればと願っていますけれども、これはいうは易く実行はなかなか困難ですから、現在の段階としては、一人でも多くまじめな実行者を期待しておる次第です。

第二部

胎教読本

はしがき

「胎教読本」は月刊「勝友」に、昨年四月から八月にかけて連載したものを、読者の要望に応えて一冊にまとめて世に出すことにしました。

これを熟読され且つ実行されて、一人でも多くよいお子様を安産されますことを切望します。

立派なお子様の誕生は、ひとり一家の喜びだけでなく、同時に国家社会のためでもありますから。

昭和二十七年四月二十八日

祖 岳

毎日の新聞を見ますと、明るいニュースは少なく、修羅道、餓鬼道、畜生道の展覧会のようてんらんかいで全く慨歎がいたんにたえません。

人間の煩惱ぼんのうを大約たいやくして、貧瞋痴とんじんち（貪り・瞋り・愚痴）むさぼということは何ぞ存知の通りですが、この三つは三即一そくで、この一つあるときには、いつ

も他の二つがついて来ます。なぜならば貧欲心とんよくしん（貪る心）むさぼが起れば必ず愚痴ぐちが出て来ます。また思うようにいかないと瞋意しんい（瞋り）いかが出て来る

といったように、いつもこの三つは連れ立って起るものです。そしてこの貧瞶痴とんじんちなるものは道に叶かなわないものですから、必ず悪い結果をもたらします。

世界平和は人類の切望せつぼうするところであり、私達仏法を信ずる者なら脚下照顧きやつかしやうこ、世界平和を理想として、その脚下きやつか（足もと）から平和の礎いしずえを建設してゆかねばならないと思います。それには色々な方法があります。が、その最も根本的かつ能率的なのは胎教たいきやうであると確信しております。なぜならば、胎教たいきやうの効果は広大無辺こうだいむへんであります。何と言っても身心ともに健全な赤ちゃんを安産する道だからであります。しかし身体の健康と不健康は一見して判りますが、精神の健不健しんこうとは素人すうじんには一寸判りにくいものです。ですが精神の健康とは、要するに悪いことは絶対にする気になれず、良いことは何としてもやらすにはおれないということです。こういう身心共に健康な子供を生むのが胎教たいきやうの目的であります。

先日、ある大学教授の書かれた胎教たいきやうの本を読みましたが、医者なので体の面の胎教たいきやうはよく研究してありましたが、精神面の方は一寸も触れていないのに失望しました。「身心共に健全である」べきなのに、「心」の面を強調する人は少ない。わたしは四十年前からいろいろと研究して、この道でなければ国家は救えないと考え、盛んに人に勧めすすていますが、願わくは、国家がこの事を取り上げて全国の保健所を動員し、保健婦を通して胎教たいきやうの指導しどうをして欲しいと思います。そうすればその年からお金

に換算しても十億も百億も利得はある訳ですから、世界のために先ず国家から、国家のためにはまず我家から第一歩を踏み出すことを要望する次第です。ではその方法論に入ることになりました。

胎教の方法

これから胎教の具体的な方法について、五つに分けてご説明します。

一、消極的心得

老若男女を問わず誰にでも言える事ですが、特に妊娠中の婦人は、眼に決して悪いものを見ないように、耳に悪いことを聞かないように、口には悪いことを言わないように、心には道に外れたことを思わないように、そして体も、精神を汚すような不潔な場所へ出入りしないように注意することです。体の取扱いも無作法の態度をしないこと。立つ時は両手をついて立ち、坐る時は畳の目にそって坐るようにします。食物も切目正しく切ったものを頂くようにし、食器も欠けたものなどは用いないように、万事キチンとした清浄な生活をするよう心掛けます。

二、積極的心得

これは消極的心得の裏返しと思えばよろしい。即ち身は常に行儀正しく立居振舞すること。脚は、出切るだけ尊い場所（学校、神社寺院の法要など）或は爽快、雄大、荘厳な山水原野へ出掛けること。口は言う

べきことは言わなければなりません、なるべくよい事の外は言わないようにします。耳にはよい事、尊とうとい事を聞くように心掛けること。眼は努めて盛大雄渾な大自然界せいだいゆうこん（例えば崇高な山川、無心の草木、可憐な花、光輝な日月星辰など）や、崇敬すべき神仏聖賢の尊影を拝覧することです。その標準に私は聖徳太子の尊影と旭日昇天の太陽を勧めておりますが、これに限らず観音様や、その他の仏画や仏像などでもよろしい。（出来ることなら、正面向きがよい）そして心には常に善良なことだけを思い浮かべるように努めなければなりません。

また妊娠中は、寝る時間以外は無理をせぬ範囲で働いた方がよく、た いぎだ、身体が重いからといって寝そべっているのは良くありません。

以上、消極的心得と積極的心得で胎教の心得は、抽象的には一応済んだのですが、では具体的にどうしたら宜しいのかを説明したのが次の第三項です。

三、胎教の静坐の方法

静坐というのは、深い意味の坐禅とは違って、浅い意味で静坐とい ます。

静坐の仕方は、まず厚い坐蒲団を敷いて、日本坐といって膝を少し開 き、後の足を重ねて、その上へお尻をどっしりと載せて坐る。お尻を後へひく位にして下腹を前へぐつと出し気味にし、更に背筋を真直ぐにし、猫背の人は胸を少し張るようにて出します。

視線は自然に膝頭から一〜一・五メートル先へ落ちる位の頭のそなえがよろしい。眼は正しい坐禅ではふさいではなりません、静坐の場合
はどちらでも宜しいです。

一番大切なのは、この時の気持ちであって、それはどういう気持かというのと、どっしりした気持で、天地を坐蒲団にして、その天地の間に自分一人いる、というような大きいどっしりした気分、そしてその上にリーンと張り切った気持を失わないようにします。

志の深淺にもよりますが中位の人を標準にして言えば、午前中の適当な時間に三十分、また午後は夜、就寝までの間に三十分間静坐します。静坐の場所は床の間があれば、それに向かって坐ります。床の間がない時は、人の出入りの少ない、静かな場所を選びます。

用意するものは、旭日昇天を描いてある掛軸と、聖徳太子なり観音像、菩薩像などの中でも、ふつくらした、暖かみのある掛軸を用意します。

朝の静坐は旭日昇天を描いてある掛軸の前でおよそ四〜五分間、ただ熱心に太陽の中心を眺めます。次に眼を閉じて四〜五分間、旭日昇天（旭日が昇っていく）の所を心に描きます。これを二回繰り返します。

そして後はゆったりした気分です。四〜五分間自然に任せて坐ります。以上合計で三十分間になります。これが朝の静坐の要領です。

午後の静坐も朝と同じですが、聖徳太子なり仏様なり、尊いお姿の前で、やはり朝にやったように四〜五分間熱心にお姿を見つめ、それか

ら眼を閉じて四く五分間そのお姿を心に思います。これを二回繰り返し、後は四く五分間、只リンとして坐ります。

ここで注意したい事が一つあります。誰でも起きてから寝るまで、心にはクシヤクシヤと何か思っているものですが、それを絶対に邪魔にははいけません。同時に無暗に相手にすることもいけません。要は、そんな事は眼中におかず、放置して、今説明したことをただ実行さえすれば完全なのです。それから坐を立つ前に、朝晩ともに十句観音経を少くとも三べん繰り返して立派な赤ちゃんが安産するようにと、お祈りしてから坐を立つのがよろしい。

（延命十句観音経 観世音 南無仏 与仏有因 与仏有縁 仏法僧縁
常楽我浄 朝念観世音 暮念観世音 念々従心起 念々不離心）

何故聖徳太子を標準にしたかという理由は、太子は推古天皇の摂政の宮として、日本文化を建設し成就された日本の大聖人であらせられるからです。また、太陽を選んだのは、明治天皇の御製「さしのぼる朝日の如く爽やかに持たまほしきは心なりけり」この御精神を理想と仰ぎたいためであります。

四、胎教と読書の心得

読書の影響は普段でも非常に大きいものですが、特に妊娠中は前述の消極的心得も積極的心得も、読書で大半を果たすことができますので、これは非常に大切な一項目です。

一言で云えば、絶対に信じて読むべき価値のあるものを読むこと。例えば仏陀の経典、祖師の教訓、聖賢の書などの宗教的なもの、倫理的なものなど。特に偉人の立志伝のような伝記類なども合せ読まれることをお勧めします。困難と闘って成功を克ち得たといった立志伝風なものを読むと、積極的で活動的な人格が出来るのです。さもないと静かな人格は出来ても消極的で動的な人格は出来にくいのです。この意味から、例えば経済方面なら二宮尊徳、カーネギー、政治方面なら維新の三傑とか、ワシントン、聖賢なら聖徳太子、孔子、ソクラテス、各宗の高僧、釈尊伝などを読まれると良いでしょう。

読む時は正しく坐り、伝中の人に対する尊敬の念と興味とを以って読まないで、効果が薄いのです。決して嫌々読んだり、馬鹿にして読んだり、批評的に読んだりしては役に立ちません。

なお、最近取り上げられている科学方面のものも、科学的な頭を作る上から読まれると良いと思います。

もし、万一自ら読む力のない人は、他人に読んで貰ってもいいし、講釈して貰っても良いでしょう。また仏祖聖賢のお話を心静かに聴くのは非常に良いことです。そういう機会には進んで出席されるとよろしい。

最も厳禁したいのは、つまらない朝変暮改の思想や、感傷を羅列した雑誌や小説類であります。こういうものには決して目にも耳にも触れないようにして下さい。同じように、読書ではないが映画（テレビ）にも

注意が肝要かんようです。また、現代ではたとえ有名な人であつても正しい見地からみてどうかと思われる人が多いから、よほどこちらの選択眼せんたくがんがないと害があります。その点、古人の偉い人の方が安全です。

それから、学者になるわけではないのですから、沢山の本を読む必要はありません。要は精神の滋養じようとして読むのです。

五、胎教たいきようと情操じようそ（心がまえ）

胎教たいきようの心得こころえの中でこの一項が一番大切であります。言い換えれば、他のこれまで述べた心得こころえは、ここに至る気持を養うための準備であつたのです。

さて、この項の要訣ようけつは、極めて穩健おんけんにして、しかも快活かいかつ明朗めいろうな心持こころもを失わないように注意することです。心は大山だいせんの如くごと、気は大海たいかいの如く大きく、のんびり快活かいかつにして、常に神仏しんぶつを信じ、上を敬うやまい、下を憐あわれみ、同友相愛どうゆうそうあいするのです。決してつらいことで感情を嵩たかぶらせたり、蔭日向かげひなたの心を持つたり、ウソをついたり、傲慢ごうまんな心を起こしてはなりません。すべて善くない心が動けば深く畏おそれ、懺悔ざんきざんげしなければなりません。

また、お産さんの難易なんいのことや、経済上の心配、周囲の人達の善し悪しなどは夢にも心にかげず、すべての幸不幸などを気にしないで、その日その日に満足して平和に快活かいかつに、のんびりどっしりした気分を保つのです。

元禄時代の大儒げんろく、稲生恒軒たいじゆの「いなご草」という書に、「夫婦和合して子うまるるは、天施ほし、地生しずることわりにて定まりたる道なれば、

唯幾度もやすやすとのみ生れるべき道理なるに、難産して苦しみ或は死するものあるは何ぞや。懐胎十ヶ月の内保養悪しければなり。如何なるをか保養悪しきと云う。思わでも苦しからぬことを強いて願い、或は物ねたみ深く、物疑い断たずそれに産のときはいかがあらんとの氣遣いさえさし加えて、氣の結ばるる事かぎりなく、身の立居も程よからず、大様これらを保養あしきというなり。如何なるをか保養よきという。心に思うことなく、願うことなく、怒りもなく、恐れもなく、産の時の事も天命に任せて氣遣わず、唯心の内、常に静かにして、かりそめにもさわがすことなく、身重くして苦勞なりとも、常によき程に立居働き、寝たくもさいさいは寝ねず、折り折りは晴れやかなる所に出で、遠く眺めて氣をのぼし、心を慰め、かくの如くするを大様保養よしとはいうなり。保養よくして難産する人は百が中に一人もあらじ。」

以上のように述べてあります。精神を穩和にして平靜であることが、いかに大切であるかと共に、一心清淨にして神仏を信じ、我欲のないようにと勧めるのであります。

六、誕生後五〜六年間の注意事項

胎教の仕方は以上で判ったとして、次に大切なのは誕生後の五〜六年間であります。胎内にいる間の子供は、母胎と全く一体であるだけでなく、精神の動きもまた母親と全く一つですから、妊娠中の母親としての身心の動きは完全に善悪共に子供の教養になります。換言すれば胎内の

子供は、母親の意志のままに教育効果を挙げ得るといふ訳です。

ところが生れると別々になるから、母子の関係が胎内たいたいにある時に較べくらて大分薄うすくなつてきます。それも一年二年と先へ行く程薄うすくなります。それに子供の方も自我意識が次第に発達してくるので、従つて段々と教育は難しくなつて来るのです。

そこで胎教たいきょうに次いで大切な時代は、生後一カ年であり、次いで二年であり、次は三年、更に四年と、段々と善悪共に感化かんかの効力は少なくなつて、二十才前後ともなれば他動的たじうてきだけでは、ほとんど効き目のない時代になります。ですから生後一〜二年ないし五〜六年間かんかが感化訓育上最も大切なのであります。その幼年時代こそ感化かんかの効果が如何いかに大きいかは、心理学者や感化事業かんかじぎょうに従事する人達の等ひとしく知るところです。

しかしながら、世間の多くは、この最も大切な期間を赤ん坊は虫同様に、感化かんか上に何の影響もないものとして、顧みかえりない者が多いことは誠に遺憾いかんであります。要するに赤ん坊の周囲の一切の出来事は、悉ことごとく明白めいはくにししかも深く赤ん坊かんかを感化かんかするものですから、両親は勿論もちろんのこと、祖母、伯叔おじおば、兄弟等の言動は赤ちゃんの前では十二分に注意して頂きたいものです。また、事情あつて他人の手を借りたり、よそへ一時預ける場合でも同じような注意を要します。

次に二〜三才頃になつて、近所の子供と遊ぶようになると、初めてその家庭を出て社会生活の第一歩に入ります。そうしますと、その遊ぶ家

の子供の好悪長短の感化を受けることが非常に深いものですから、この点にも十二分の注意を要します。

わたしの道友に、今は故人ですが、松浦某という感心な人格者がおりました。この人は胎教としては、あまり言うべき程の感化を受けてはいませんが、生後祖母の膝の上で、念仏と共に目を醒まし、念仏と共に眠らされ、長じて童話を聞く頃には、忠臣孝子、殉教者などの話を聞くのが常でありました。それが後日、宗教家として相当の地歩を占めるようになった原動力であつたらうと云われています。またあの有名な孟母三遷の教えも、この時期に注意を払った好模範であります。このようにこの時期の感化は両親、特に母親の力に俟たねばならないし、その影響は測り知れないものがありますから、親たるものは、この辺の消息をよくよく自覚して頂きたいと思ひます。

このようによく自覚し、よく教化して四々五才に幼稚園、六々七才で小学校に行くようになれば、感化の効力も少なくなるし、学校の教師の教養も加わるから、両親の責任は幾らか軽くなる訳ですが、やはり任せたとする無責任な考えではおれないことは勿論であります。

七、光輝ある予言

さて私たちは、本性の性質能力を知り、因果必然即ち大自然の律動を信ずるものは、胎教の効力によつて、偉大な愛児を安産出来ることを明白に知ることが出来ました。ここに確信と深大な希望に充ち満ちて、愉快

に生活しつつ向上進歩することが出来ます。殊にこの胎教は、古今東西の心ある人々によって広く行われ、且つ実証済みとなっており、現代に至つて益々有識者によつて宣伝されて来ましたから、近い将来に於いて国家社会が必ずや実行する日が来ることと信じます。否、一日も早くこの好日を迎えて、国民の身心を徹底的に改造したいものです。彼の欧米人は、研究心も功利心も旺盛だから、日本人がグズグズしていると、彼等に機先を制せられるようになるかも知れません。

私たちは今こそ目覚めて、世界に先がけて、この大事業を執行することとなれば、今後一兩年の後、出産前後の光景からして、まず色々な効果を認め得るでしょう。若しある一つの社会、例えば一ヶ町村全部実行すると仮定して想像してみますと、一ヶ年後はそろそろ全町村の父母の喜びの声が聞けるでしょう。例えばウブ湯のときビクビクしない、両手を堅く握らなかつた、メソメソと泣かない、夜寝る時間と朝目を覚ます時間が正確だ、体重が標準以上だ、健康だ、おとなしい、人に愛される等々です。また、年々その実績を認めつつ、六ヶ七年の後には胎教を受けた者だけを小学校に送り得るわけで、その前年度の学童に比べて頭脳、人格、体質等に於いて、歴然とした相違があることを実証できて、安心して歓喜とに湧き立つことでしょう。更に十六ヶ七年後には青年子女の風気益々向上して、質実剛健、勇往邁進の美風を見ることが出来、二ヶ三十年後には必ず県下の模範町村となり、四ヶ五十年後には遂に我が日本

の理想郷であるパラダイスとなることを信じて疑いません。

あゝ親愛な読者の皆さん、これを私の過信かしんと笑わないで欲しい、誇大こだい妄想もうそとうと誇あなどらないで欲しいのです。大自然の律動りつどうは、因果必然いんがひつぜん、二二が四のみ二三が六のみ、平々凡々の理ことわり、誰かこれを信ぜざらんやであります。この大希望に向けて生活する、これこそ人生の真価しんかであり、且つ無上の痛快時つうかいじでなければなりません。

ここをもつて私は世界平和はまず胎教たいきょうからと提唱ていしようする所以ゆえんであります。

以上、簡単なながら胎教についての話は終りにしますが、実行するに当っては、本誌を再三熟読じゆくどくされ、出来ることならば適當の指導者を家庭に招いて、本人及び夫は言うまでもなく、家中揃そろって胎教の心得こころえを親しく聞かせて頂き、且つ信仰生活に入って、願わくは胎内の愛児あいじのために受戒じゆかいもして、いよいよ実行に取りかかるなら大變結構けつこうだと思えます。

(終)

旭日昇天の掛軸



聖徳太子像の掛軸（原田老師画讃付き）



※胎教希望の方には、お貸ししますので、東照寺へ遠慮なくお申し出下さい。

四弘誓願文

衆生無辺誓願度 煩惱無尽誓願断 法門無量誓願学 仏道無上誓願成

延命十句観音経

観世音 南無仏 与仏有因 与仏有縁 仏法僧縁 常楽我浄 朝念
観世音 暮念観世音 念々従心起 念々不離心

地藏願王菩薩神呪

おんかーかーかびさんまーえいそわか

食前のお経

三匙さんびの偈げ

一口いっく為断だん一切いっさい悪あく (すべての悪を除く為)

二口にく為修しゆ一切いっさい善ぜん (すべての善を行う為)

三口さんく為度ど諸衆生しよじゆじやう (すべての人を救う為)

皆共かいぐ成じやう仏道ぶつどう (皆共に成仏する為に)

五観ごかんの偈げ

一ついっくには功たしやうの多少はかを計り彼かの来処らいしよを量はかる

二つおのれには己とくぎやうが徳行ぜんけつの全缺はかを付ぐつて供おうに応おず

三つしんには心(の)ふせを防とがぎ過はなを離ことる事は貧等とんどうを宗しゆうとす

四つまひには正りやうやくに良薬ことを事ぎやうことするは形枯りやうを療ためぜんが為ためなり

五つじやうどうには成道ための為ゆえの故いまこに今此じきの食うを受うく

(右の偈文の略解を左に記します)

一には今頂いかくところの食物へが如何いに多かくの手数へを経て来かたかを思いい、またそれがどなたから頂くのであるかを考えること。

二には私たちお互いの道德行為とがの上に、過とがや欠点とがが無いかを反省とがして、この尊とんい食じんちを頂さんくのです。

三つには食物に対して不平や欲望ざいかを起こして心に罪過とんじんちを造さんるのは、貧さん瘕どくの三毒さんどくによるものだから、この三毒さんどくを離さんれて頂さんかなければなりません。

四つには味わいの良否りやうやくを問りわず、正りに良薬りやうやくとして頂りくのであるから、その食事はただこの身の命りやうやくを保ち得れば足りりるのです。

五つには自他共に人生の最大目的は無上道むじやうどう (人格の絶対完成) であるから、その為むじやうどうにこの食を頂むじやうどうくのです。